

# 2014年3月期第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2013年7月  
大阪ガス株式会社

# I. 14.3期第1四半期実績

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

**「見通し」に関する注意事項** : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

本日は、お忙しいところ、当社の電話会議説明会にご参加下さいまして、ありがとうございます。

ただ今から、2014年3月期 第1四半期決算について、弊社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、簡単にご説明させていただきます。

# 14.3期第1四半期決算のポイント

## ■ 概況

売上高	LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格の上昇等により、 <b>前年比3.4%増収の3,396億円</b> 。
経常利益	ガス販売量の減少や時期ずれ差損の拡大により、 <b>ガス粗利益が減少したこと等から、前年比16.7%減益の302億円</b> 。 <b>時期ずれ差損が121億円発生</b> (前年同期時期ずれ差損91億円)。

## ■ ガス販売量

家庭用	気水温が前年より高めに推移したこと等から <b>前年比5.6%減少の545百万m<sup>3</sup></b> 。
商・公・医療用	お客さま先での省エネルギー推進等により <b>前年比1.4%減少の310百万m<sup>3</sup></b> 。
工業用	お客さま設備の稼働減等により、 <b>前年比1.5%減少の1,030百万m<sup>3</sup></b> 。

## ■ その他

新規事業拡大投資	パプアニューギニアにおいてコンデンセート・ガス開発プロジェクトへの参画を意思決定。第1四半期の投資実行額は計207億円。
----------	--

資料の3ページをご覧ください。

2014年3月期 第1四半期は、増収・減益の決算となりました。

売上高は、LNG価格の上昇に伴い、ガス販売価格が上昇したこと等から、前年と比べて3.4%増収の3,396億円となりました。

経常利益は、ガス販売量の減少や、時期ずれ差損の拡大によって、ガス粗利益が減少したこと等により、前年と比べて16.7%減益の302億円となりました。なお、時期ずれ差損は121億円発生しており、前年同期と比べて29億円拡大しました。

ガス販売量について、家庭用は、気水温が前年より高めに推移したこと等から、前年を5.6%下回る5億4,500万m<sup>3</sup>となりました。

商・公・医療用は、お客さま先での省エネルギーが進んだこと等により、前年を1.4%下回る3億1,000万m<sup>3</sup>となりました。

工業用は、お客さま設備の稼働が減少したこと等により、前年を1.5%下回る10億3,000万m<sup>3</sup>となりました。

新規事業拡大投資については、パプアニューギニアにおけるコンデンセート・ガス開発プロジェクトへの投資を新たに意思決定しました。

なお、第1四半期の投資実行額は207億円となっています。

# 14.3期第1四半期ガス販売実績

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 14.3期1Q	B. 13.3期1Q	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,092	7,049	+43	+0.6%
	新設工事件数(千件)	19	17	+2	+9.7%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	31.0	33.0	-2.0	-6.0%
	家庭用	545	577	-32	-5.6%
	商・公・医療用	310	315	-4	-1.4%
	工業用	1,030	1,046	-16	-1.5%
	業務用計	1,340	1,360	-20	-1.5%
	他ガス事業者向け	107	111	-4	-3.3%
	(うち大口供給)	(1,160)	(1,176)	(-16)	(-1.3%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	1,992	2,048	-56	-2.7%
連結ガス販売量	2,002	2,058	-56	-2.7%	

資料の4ページに、ただ今ご説明しました ガス販売実績をまとめて  
 おりますので、ご確認下さい。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を2.7%下回る 19億9,200万m<sup>3</sup>  
 となりました。

# 14.3期第1四半期実績 I

連結：億円、( )内は連単倍率

	A. 14.3期1Q	B. 13.3期1Q	A-B	A-B/B(%)	備考
売上高	(1.22) 3,396	(1.22) 3,285	+111	+3.4%	ガス販売単価の上昇等
営業利益	(1.45) 280	(1.33) 331	-50	-15.2%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(1.28) 302	(1.21) 363	-60	-16.7%	持分法投資利益の減少等
四半期純利益	(1.23) 210	(1.11) 236	-25	-11.0%	

	A. 14.3期1Q	B. 13.3期1Q	A-B
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup> 2,002	2,058	-56
時期ずれ差損益	億円 -121	-91	-29
原油価格	\$/bbl 107.7	122.6	-14.9
為替レート	円/\$ 98.8	80.2	+18.6

14.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均。

Design Your Energy 夢ある明日を  


資料の5ページに、決算数値をお示ししていますので、ご確認下さい。

売上高は、ガス販売価格の上昇等により、前年と比べて111億円増加の3,396億円になりました。

下の表にありますように、ガス販売量の減少や時期ずれ差損の拡大によって、ガス粗利益が減少したこと等により、営業利益は、前年と比べて50億円減少の280億円、経常利益は、前年と比べて60億円減少の302億円となりました。

## 14.3期第1四半期実績 II

連結:億円	A. 14.3期 1Q末	13.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	15,824	14,631	15,668	+155	固定資産の増加等
自己資本	7,740	7,057	7,478	+262	
有利子負債	5,604	5,439	5,401	+202	
在籍人員	20,163	19,926	19,870	+293	
自己資本比率	48.9%	48.2%	47.7%	+1.2	
D/E比率	0.72	0.77	0.72	+0.00	

	A. 14.3期1Q	B. 13.3期1Q	A-B	備考
設備投資	296	375	-78	上流案件の権益取得・開発費用等
減価償却費	198	202	-4	
フリーキャッシュフロー	-100	24	-125	利益の減少に伴うキャッシュフローの減少

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、資料6ページの通りです。

設備投資については、上流事業案件へのキャッシュアウトが前年に比べて減少し、前年を78億円下回る296億円となりました。

7ページ以降には、第1四半期決算のセグメント別情報や、4月以降意思決定した新規事業拡大投資の案件等のご参考資料を付けておりますので、後ほどご覧下さい。

なお、2014年3月期の業績見通しにつきましては、3月発表時から変更はありません。

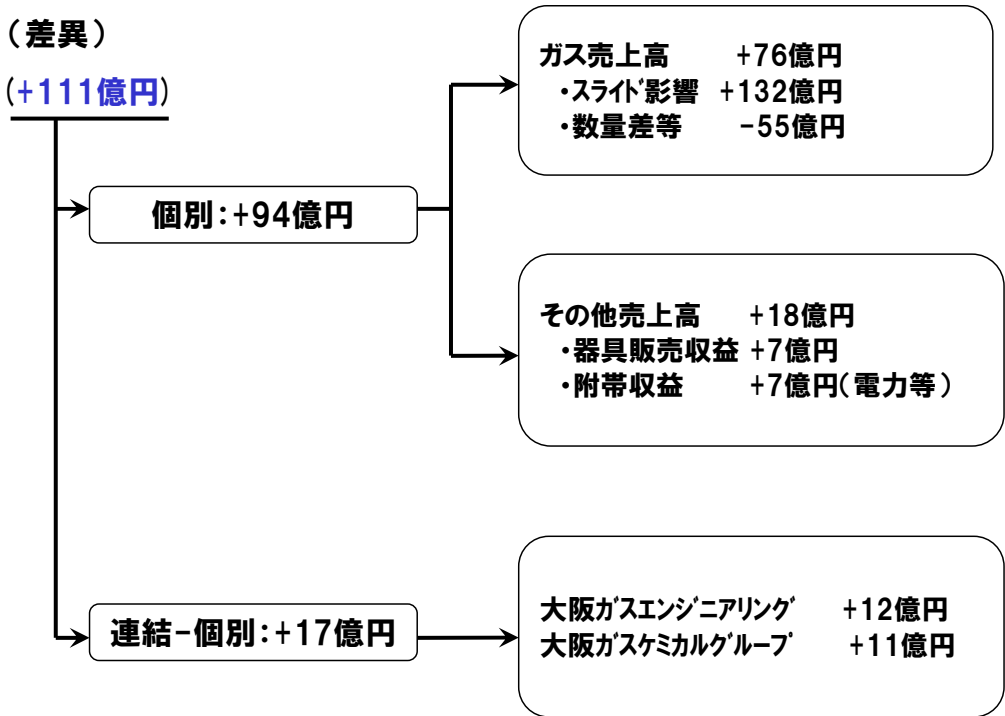
以上で、2014年3月期 第1四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

## II. 参考資料 (1)

# 14.3期第1四半期の売上高差異(対13.3期)

13.3期1Q → 14.3期1Q (差異)

3,285億円 3,396億円 (+111億円)

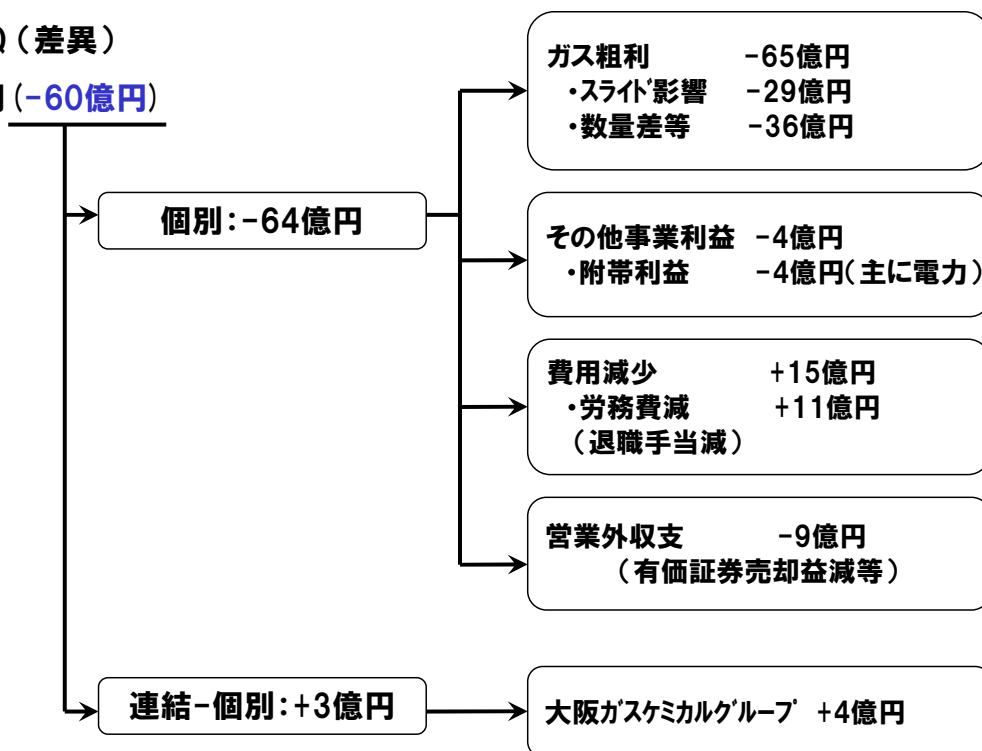




# 14.3期第1四半期の経常利益差異(対13.3期)

13.3期1Q → 14.3期1Q (差異)

363億円      302億円 (-60億円)



+-の符号は利益への影響を表す。

# 14.3期第1四半期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期 1Q	13.3期 1Q	14.3期 1Q	13.3期 1Q	
ガス	2,551	2,464	134	182	売上:ガス販売単価増 利益:販売量減、時期ずれ差損拡大
LPG・電力・ その他エネルギー	531	517	94	97	売上:電力販売単価増
海外エネルギー	29	26	14	23	持分法投資利益減(北海油田)
環境・ 非エネルギー	430	412	43	39	売上:大阪ガスエンジニアリング、 大阪ガスケミカルグループで増加 利益:大阪ガスケミカルグループで増加
消去又は全社	-145	-136	6	6	
連結	3,396	3,285	293	349	

(\*)セグメント利益=営業利益+持分法投資利益

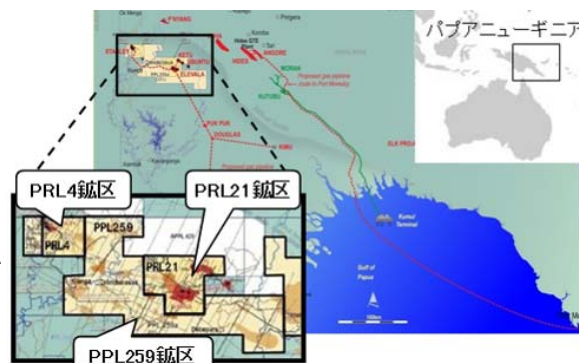
## パプアニューギニア コンデンセート・ガス開発プロジェクトへの参画

- 2013年5月、パプアニューギニアにおいて コンデンセート・ガス開発プロジェクトへの参画を決定。

### プロジェクト概要

- 所在地 :パプアニューギニア西部州
- 参加会社:ホライゾン社(オペレーター)ほか
- 権益保有比率:10~20%(鉱区により異なる)
- 産出資源:コンデンセート(超軽質原油)・ガス
- 生産開始:2015年頃予定
- ホライゾン社および既存パートナーとともに将来的なLNG開発の可能性も検討

\* 権益取得は、パプアニューギニア政府の承認および当該事業の既存パートナーの同意等をもって完了



### III. 参考資料 (2)－14.3期見通し

**3月発表時の見通しから、変更ありません。**

# 14.3期ガス販売見通し

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 14.3期 見通し	B. 13.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,112	7,086	+26	+0.4%
	新設工事件数(千件)	98	91	+6	+7.1%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	31.6	32.5	-0.8	-2.6%
	家庭用	2,222	2,272	-51	-2.2%
	商・公・医療用	1,481	1,540	-59	-3.8%
	工業用	4,390	4,222	+169	+4.0%
	業務用計	5,871	5,761	+110	+1.9%
	他ガス事業者向け	466	469	-3	-0.7%
	(うち大口供給)	(5,053)	(4,894)	(+159)	(+3.2%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	8,559	8,503	+56	+0.7%
連結ガス販売量	8,589	8,534	+55	+0.6%	

# 14.3期見通し I

連結:億円	A. 14.3期		B. 13.3期		( )内は連単倍率	
	見通し		実績		A-B	A-B/B (%)
<b>売上高</b>	(1.26) 15,080		(1.24) 13,800		+1,279	+9.3%
<b>営業利益</b>	(1.75) 1,000		(1.84) 847		+152	+18.0%
<b>経常利益</b>	(1.61) 1,000		(1.63) 901		+98	+11.0%
<b>当期純利益</b>	(1.52) 645		(1.49) 524		+120	+22.9%
SVA ※1	274		186		+87	+46.9%
<b>連結ガス販売量</b> 百万m <sup>3</sup>	8,589		8,534		+55	
<b>時期ずれ差損益</b> 億円	-103		-207		+104	
<b>原油価格</b> ※2 \$/bbl	113.2		113.9		-0.7	
<b>為替レート</b> ※2 円/\$	95.9		83.1		+12.8	

※1 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※2 2013年7月～2014年3月の前提は、原油価格115 \$/bbl、為替レート95円/\$

Design Your Energy 夢ある明日を

 OSAKA GAS

## 14.3期見通し II

連結:億円	A. 14.3末見通し	B. 13.3末実績	A-B
総資産	16,258	15,668	+589
自己資本	7,673	7,478	+194
有利子負債	6,070	5,401	+668
在籍人員(人)	20,201	19,870	+331
自己資本比率	47.2%	47.7%	-0.5
D/E比率	0.79	0.72	+0.07
	A. 14.3期見通し	B. 13.3期実績	A-B
設備投資	1,347	1,129	+217
減価償却費	801	828	-27
フリーキャッシュフロー	889	850	+38
ROA	4.1%	3.4%	+0.6
ROE	8.6%	7.3%	+1.3
EPS (円/株)	31.0	25.2	+5.8
BPS (円/株)	368.5	359.2	+9.4

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)ー通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

# 14.3期セグメント別見通し

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期 見通し	13.3期 実績	14.3期 見通し	13.3期 実績	
ガス	10,840	10,385	343	233	売上:ガス販売単価増 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,580	2,155	389	382	売上:LNG・LPG販売単価増など 利益:LNG・LPG販売利益増など
海外エネルギー	175	107	94	76	上流事業利益増など
環境・ 非エネルギー	1,995	1,856	201	190	売上:不動産売上増など 利益:情報事業利益増など
消去又は全社	-510	-704	29	27	
連結	15,080	13,800	1,056	911	

(\*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益



# 年度見通しに対するリスク要因

## ■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

## ■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度第2四半期以降の経常利益は12億円変動する可能性がある。

## ■ 為替レート

- LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度第2四半期以降の経常利益は12億円変動する可能性がある。

## ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

## ■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。